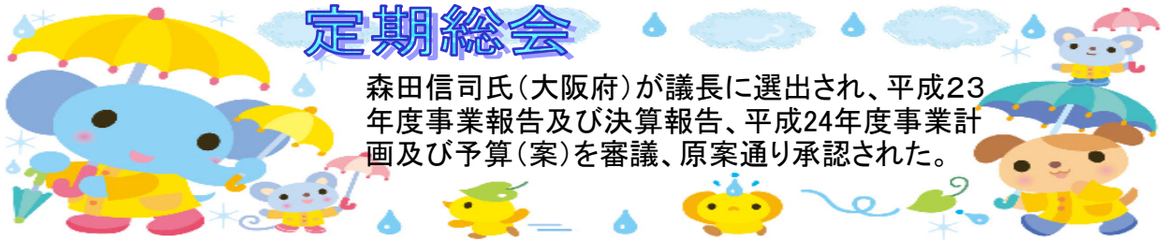
保育総合研究会広報誌　NO. 48

発行所：　保育総合研究会事務局　　平成24年6月
茨城県東茨城郡茨城町上飯沼1276－1　飯沼保育園内
TEL029－292－6868　FAX　029－292－3831
発行人　会長　横沢　青花

平成24年5月15日（火）午後1時からアルカディア市ヶ谷私学会館において総会並びに定例会が行われた。



森田信司氏（大阪府）が議長に選出され、平成23年度事業報告及び決算報告、平成24年度事業計画及び予算（案）を審議、原案通り承認された。

1．平成23年度事業報告

昨年3月11日の東北地方太平洋沖地震で甚大な被害をもたらし、被災された地域・皆様方には心からお見舞い申し上げます。そして、早期の復旧・復興を心からご祈念申し上げます。

保育界では子ども・子育て新システムの取りまとめに向けて、制度や給付の在り方、幼保一体化施設等のについて精力的にワーキングで議論を重ね、３月２日に全閣僚で構成される少子化社会対策会議で新システムの基本制度並びに法案骨子が決定された。そして、「子ども・子育て支援法」「総合こども園法」、そして関連する法律の整備法がて提出されたところである。

こうした中で第３６回定例会では、厚生労働省保育課長を招き子ども・子育て新システムについての講演を頂いた。第３７回定例会は会場を函館市に移して、新システムで食育がないがしろにされる危惧から、東京家政学院大学准教授を招き、改めて「食育計計画の考え方と作り方」について講演を頂き、併せてシンポジウムも行った。第３８回定例会は保育内容の観点からお茶の水女子大学名誉教授を招いて「０歳からの教育」をテーマに講演、そして、「これからの保育、保育者」をテーマに日本保育協会理事長より講演を頂いた。第３９回定例会は大分県で開催、厚生労働省の着任早々の保育課長を招いて子ども・子育て新システムの進捗状況を含めた講演、並びに質問・厚労省への提言を含めたシンポジウムを開催し、定例会４回を実施した。

年次大会は「子ども家庭福祉時代の到来を考える」メインテーマに、内閣府少子化担当参事官の講演、並びに「新システムの最終形を考える」として当会副会長との意見交交換をした。併せて白梅学園大学教授を迎えて「新システムから見えてきた乳幼児教育の行方」をテーマに講演を頂き、実施した。

研究事業として日本保育協会委託事業「保育科学研究」を２つのグループで実施、①０歳児からの保育所保育における教育的効果、②保育所と小学校との望ましい連携の在り方について研究して報告書をまとめた。

情報発信としては当会ホームページに研修実施を掲載して会員外にも周知、参加を促した。保育所職員に向けての月案作成・自己チェック等の新保育所保育指針サポートブックⅡ研修会を北海道・大分の会場で開催した。会員向けには広報誌No42号～46号を発行して研修内容を掲載してきた。日本保育協会発行の保育界に「シリーズ：新システムと保育所」を4月号～8月号、「シリーズ：保育現場の科学」を9月号～3月号まで寄稿掲載してきた。又、世界文化社発行の保育プリプリに保育過程、指導計画を付録掲載してきた。

尚、世界文化社の依頼を受けて「歳児別冊子」作成について、来年２月発行の予定を踏まえ、本年２月に委員会を立ち上げ冊子作成に向けての作業を開始した。

年　月　日	事　　業　　内　　容	場　　所
平成23年5月17日	・第1回役員会、監事会（10名）	東京・こどもの城
5月17日	・定期総会（42名参加）	東京・こどもの城
	・第36回定例会 （ゲスト　厚労省保育課長　今里　譲氏）	
6月27日	・保育指針サポートブックⅡ研修会（61名）	函館市勤労者総合福祉センター
	・第37回定例会（73名参加） （ゲスト　東京家政学院大学准教授　酒井治子氏）	
6月28日	・第1回保育科学研究委員会（12名） （第1委員会）「0歳からの保育所における教育について」 （第2委員会）「小学校との接続について」	函館市函館共愛会会議室
5月23日	・会費請求送付	（会員に送付）
8月22日	・保育科学研究第2委員会（12名） （仙台市保育課、確かな学力育成室との意見交換）	仙台市役所
9月6日	・第38回定例会（39名参加） （ゲスト　お茶の水女子大学名誉教授　内田伸子氏） （ゲスト　日本保育協会理事長　石井哲夫氏）	東京・アルカディア市ヶ谷私学会館
	・第2回保育科学研究委員会（14名）	東京・アルカディア市ヶ谷私学会館
9月17日	・保育科学研究所学術集会（椛沢会長発表）	東京・こどもの城
10月14日	・全国理事長所長ゼミナール分科会担当	東京ベイ有明ワシントンホテル
10月21日	・保育科学研究第2委員会（12名）	大阪・ハービスPLAZA6F会議室
11月22日	・自己チェックリスト研修会（81名）	大分・日田市民会館（パトリア日田）
	・第39回定例会（142名参加） （ゲスト　厚労省保育課長　橋本泰宏氏）	大分・日田市民会館（パトリア日田）
12月8日	・保育科学研究第1委員会（10名）	京都・岩倉こひつじ保育園
2月23日	・保育科学研究懇談会（16名）	東京・市ヶ谷都土風炉
2月24日	・第2回役員会（16名）	東京・アイビーホール青学会館
	・第1回歳児別冊子作成委員会（11名）	東京・アイビーホール青学会館
2/24～25日	・年次大会（48名参加） （講　師）内閣府少子化担当参事官　藤原朋子　氏 （講　師）白梅学園大学子ども学部教授　無藤　隆　氏	東京・アイビーホール青学会館
2月25日	・第2回歳児別冊子作成委員会（22名）	東京・アイビーホール青学会館
3月29日	・歳児別冊子作成委員会（0・1歳児）（11名）	東京・世界文化社会議室
4月8日	・広報誌№42号発行	
6月17日	・広報誌№43号発行	
7月15日	・広報誌№44号発行	
10月11日	・広報誌№45号発行	
12月27日	・広報誌№46号発行	
4月～8月	・保育界執筆	保育研究シリーズ:新システムと保育所③～⑦
9月～3月	・保育界執筆	保育研究シリーズ:保育現場の科学①～⑦
4月～3月	・世界文化社プリプリ付録掲載	

平成23年度会計収支決算書

（収入の部）　　（単位　円）

科　目	予算額	決算額	比較増減	備考
会費収入	1,620,000	1,710,000	-90,000	会費20,000×81　10,000×2 入会金10,000×3　過年度1施設　会員外1施設
事業費収入	2,500,000	3,350,550	-850,550	
・定例会等参加費	(1,500,000)	(1,903,000)	(-403,000)	総会・定例会3回・年次大会・サポートブックⅡ研修
・原稿執筆料	(900,000)	(1,402,200)	(-502,200)	プリプリ、チェックリスト、サポートブック印税
・冊子販売料	(100,000)	(45,350)	(54,650)	チェックリスト・サポートブック
寄付金収入	1,000	0	1,000	
雑収入	2,000	29,729	-27,729	利息　プリプリ原稿使用料（萌文書林28,800）
繰越金収入	4,710,402	4,710,402	0	
合計	8,833,402	9,800,681	-967,279	

（支出の部）

科　目	予算額	決算額	比較増減	備考
会議費	300,000	129,640	170,360	役員会、監事会室料・弁当代他
事業運営費	2,000,000	2,265,293	-265,293	総会・定例会・年次大会、懇親会、保育科学等
研究活動費	300,000	300,000	0	三部会　各10万
通信費	150,000	72,310	77,690	切手・宅配・送金料
委託費	120,000	120,000	0	HP管理料・事務局経費
印刷製本費	200,000	162,471	37,529	広報誌
備品消耗品費	50,000	25,200	24,800	封筒印刷代
旅費	200,000	0	200,000	
雑費	100,000	165,720	-65,720	慶弔費
特別会計繰出金	1,000	2,000,000	-1,999,000	
予備費	5,412,402	302,680	5,109,722	大震災見舞金3施設
合計	8,833,402	5,543,314	3,290,088	

〔一般会計〕収入総額（9，800，681円）－支出総額（5，543，314円）　差引残高4，257，367円

平成23年度会計特別会計積立決算書

（収入の部）　　（単位　円）

科　目	予算額	決算額	比較増減	備考
積立金収入	1,000	2,000,000	-1,999,000	
雑収入	1,000	2,160	-1,160	利息
繰越金収入	4,500,000	4,500,000	0	
合計	4,502,000	6,502,160	-2,000,160	

（支出の部）

科　目	予算額	決算額	比較増減	備考
取崩金支出	1,000	0	1,000	
雑支出	1,000	0	1,000	
次期繰越金	4,500,000	6,502,160	-2,002,160	
合計	4,502,000	6,502,160	-2,000,160	

収入総額（6，502，160円）－支出総額（次期繰越金）（6，502，160円）　差引残高0円

平成23年度日本保育協会委託事業
保育科学研究事業決算書

（収入の部）　　（単位　円）

科　目	予算額	決算額	比較増減	備考
委託事業費収入	500,000	500,000	0	日保協委託費
一般会計繰入金	0	0	0	
雑収入	1,000	0	1,000	
合計	501,000	500,000	1,000	

（支出の部）

科　目	予算額	決算額	比較増減	備考
旅費	280,000	320,000	-40,000	旅費補助10,000円×28名
会場借料	80,000	17,640	62,360	会場使用料3回分
消耗品費	10,000	0	10,000	
印刷費	10,000	37,297	-27,297	資料・報告書印刷代
通信運搬費	10,000	37,270	-27,270	切手代
会議費	100,000	81,793	18,207	昼食・コーヒー代
役務費	5,000	0	5,000	
雑費	6,000	6,000	0	送料
合計	501,000	500,000	1,000	

2．平成24年度事業計画（案）

子ども・子育て新システムにおける「子ども・子育て支援法」「総合こども園法」、そして、施行に伴う関係法律（児童福祉法等）の整備法の３法を本年通常国会に提出したところであるが、政治的状況から今国会で成立するかどうかは分からない。

しかし、我が国の人口は2005年（H17年）をピークに減少に転じ、今後の人口動態推計では（低位推計）現在の１億２千７百万人から2050年（平成62年）には９千２百万人になると公表されたが、各市町村別の推計では地方の人口減少は早まることが推測される。下記アドレスは各市町村別の今後の人口動態推計を見ることができるので参考までに。

http://www.ipss.go.jp/pp-shicyoson/j/shicyoson08/5-sai/shosai.html

このように子ども人口減少が進行する地域と待機児童が存在する地域がある中で、就学前の教育・保育で必要とする子ども集団が、「できない」「入れない」現象が起きている。こうした子どもたちの対応を早急に検討しなければならない。

幼保一体化とする新システムでは、幼稚園の私学助成が残るなど３歳児以上の受入れのままで存続できるとしている。保育園では０歳児から教育的効果を見据えて保育しているが、３歳からの幼稚園教育で子どもの発達の連続性の観点から３歳で分断される危惧され、幼稚園教育前の家庭養育が問われてくることになる。

こうしたことから本年度は、歳児別（年齢別）の保育のあり方を言語化・明文化して、０歳からの育ち・保育の在り方についての冊子作成に取り組みたいと考えている。又、認可保育所がすべての子ども、子育て家庭の受入れ方・関わり方を研究し、実践に繋げるために研鑽し、研修・情報発信等を通して保育園への周知して保育の質の向上を目指して事業展開するものである。

1. 事　業
　①定例会の開催
　②年次大会の開催
　③部会の開催（保育内容部会・人材部会・子育て支援部会）
　④広報誌の発行（定例会並びに年次大会の都度）
　⑤日保協保育界、世界文化社保育プリプリに寄稿して掲載する。
　⑥その他必要に応じ関係すること
　　・サポートブックⅡ、チェックリスト研修会の実施
　　・歳児別冊子（0・1歳児、2歳児、5歳児）作成委託事業（世界文化社）
　　3歳児、4歳児への作成準備

2. 会　議
　①総会の開催
　②役員会の開催

3. 事業日程内容

年　月	事　業　内　容	備　考
平成24年5月	・役員会　・監事会	・東京
5月	・定期総会　・第40回定例会	・東京
7月	・第41回定例会	・東京
9月	・第42回定例会	・三重県
11月	・第43回定例会（11/3）	・青森県東通村
平成25年2月	・年次大会	
	・歳児別冊子発行	（世界文化社）
3月	・役　員　会	

※　尚、ゲスト講師はその都度、行政・報道関係・医師・教育関係者等を迎える予定である。

平成24年度会計収支予算書（案）

（収入の部）　（単位　円）

科　目	前年度予算額	本年度予算額	比較増減	備　考
会費収入	1,620,000	1,620,000	0	20,000×80　10,000×2
事業費収入	2,500,000	2,450,000	-50,000	
・定例会等参加費	(1,500,000)	(1,500,000)	0	定例会・年次大会参加費等
・原稿執筆料	(900,000)	(900,000)	0	保育プリプリ、印税等
・冊子販売料	(100,000)	(50,000)	-50,000	サポートブックⅡ等
寄付金収入	1,000	1,000	0	
雑収入	2,000	2,000	0	利息等
繰越金収入	4,710,402	4,257,367	-453,035	
合　計	8,833,402	8,330,367	-503,035	

（支出の部）

科　目	前年度予算額	本年度予算額	比較増減	備　考
会議費	300,000	300,000	0	役員会・会議室料、弁当代他
事業運営費	2,000,000	2,500,000	500,000	定例会・年次大会・懇親会費、冊子作成他
研究活動費	300,000	300,000	0	部会活動費　各10万円
通信費	150,000	150,000	0	送料他
委託費	120,000	120,000	0	HP管理料・事務局経費
印刷製本費	200,000	200,000	0	広報誌、保育科学報告書等
備品・消耗品費	50,000	50,000	0	コピー用紙他
旅費	200,000	200,000	0	派遣旅費
雑費	100,000	100,000	0	慶弔費他
特別会計繰出金	1,000	1,000	0	
予備費	5,412,402	4,409,367	-1,003,035	
合　計	8,833,402	8,330,367	-503,035	

（科目間の流用を認めるものとする。）

平成24年度特別会計予算書（案）

（収入の部）　（単位　円）

科　目	前年度予算額	本年度予算額	比較増減	備　考
積立金収入	1,000	1,000	0	
雑収入	1,000	1,000	0	
繰越金収入	4,500,000	6,502,160	2,002,160	
合　計	4,502,000	6,504,160	2,002,160	

（支出の部）

科　目	前年度予算額	本年度予算額	比較増減	備　考
取崩金支出	1,000	1,000	0	
雑支出	1,000	1,000	0	
次期繰越金	4,500,000	6,502,160	2,002,160	
合　計	4,502,000	6,504,160	2,002,160	

第36回定例会

講演テーマ「赤ちゃんとことば」

講　師　NTTコミュニケーション科学基礎研究所
麦谷　綾子　氏

＊NTTの研究所について
NTT法の基に、13か所の研究所がありその中の2か所が短期的にビジネスに関係しない基礎研究を行っている。1つは物理学つまり未来的な研究を行っていて残りの1つは、コミュニケーション科学基礎研究所である。人間と情報の深い理解に基づくコミュニケーションの実現を目指して、人間科学と情報科学の面の研究の推進を行うことをそのミッションとしている。具体的に、発達の側面から人間を研究していて赤ちゃんの時に、音をどういう風に聞き自分の言葉にどうつなげていっているのか。また言語をどういう風に獲得していくかを研究している。

＊赤ちゃんは白紙？
赤ちゃん無能観が、一般に広く受け入れられていて、30年前の医学書には赤ちゃんは目が見えないとされていた。しかし近年脳科学の研究やロボット工学また教育者等からも赤ちゃんの発達を科学的に知りたいという要請もあり、さらに客観的に測定する手法ができ赤ちゃんに様々な感覚機能があることがわかってきた。

＊言葉の獲得のはじまり
言語とは、人間のみがもつ高度な認知機能である。ゆえに、コンピューターやチンパンジーには、ニアンスを読み取って人間と同様な処理や扱いはできない。
赤ちゃんは、実験により味覚・視覚・嗅覚をもっていることが報告された。また聴覚については、どんな声に注目し聞こうとしているか吸啜法で実験を行った結果、7か月位から外部の音を聴覚していて、新生児の泣き声は言葉の方言で泣くという事が報告された。また赤ちゃんは、対乳児音声を好み学習に有効なアンテナを持って生まれてくる。だから大人が対乳児音声を使って話かけていると相互作用が働き促進して言語獲得につながっていく。

＊音声知覚の発達について
条件つき振り向き法で、聞き取りが最適化するのはいつごろであるか実験を行った結果、一年ぐらいの間に自分の国に都合の良いように耳が変わっていき聞き取れなくなっていく。そうすると、自分の言葉をたくさんしゃべるようになる。初め聞き取れていた音が聞き取れなくなるという事は、能力を失うのではなく、言葉を学習するために良いように聞こえ方が変化していくことである。
また、発達するためにはDVDやTVを沢山見せすぎるのではなく、やはり言語学習は人間同士の直接のかかわりが重要である。

＊音声から単語へ
連続音声から、どのように単語を抽出するかについて学習セッションの実験を行った結果、連続音声の中で育児語（幼児語）のリズムを用いて単語を切り出している。育児語（幼児語）とは語中に（つ・ん・ー）を含み「わんわん」「ねんね」「ぶーぶー」等である。育児語（幼児語）は科学的にみても重要なことが報告され、赤ちゃんが言葉の学習をする1つの手がかりになっている。さらに「お」「ちゃん」がつく言葉も日本人の赤ちゃんは単語抽出の手がかりになっていることが分かっている。

＊まとめ
赤ちゃんは、言語獲得に有効な特徴を備えて胎児期から音声学習を行って生れてくる。その後、言葉の聞き取りが自分の国に適した形に変化する。さらに、成長に伴って単語抽出の手がかりとして様々なものを使い効率的に単語を切り出していく。このような力が1歳までに芽えることにより、語彙の獲得や文法の獲得が進んでいくと考えられている。

お知らせ

第41回定例会は7月9日（月）13：00～17：00、アルカディア市ヶ谷において、厚労省橋本保育課長を迎えて実施する予定です。
翌日7月10日（火）9：30～16：30まで、世界文化社本社ビル10階会議室において歳児別冊子作成委員会も開催いたします。